

児童・生徒の現状・課題

- ・8割の児童が友達と考えを共有したり、助け合ったりして、諦めずに学習に取り組むことができている。
- ・学習計画を立てたり課題や学習状況に応じて学習方法を選択したりする経験や、学びを振り返る力が不十分である。



学び続ける力を育むための重点目標

- 自己の課題や学習状況に応じた学習方法を選択し、学習内容や学習過程を振り返りながら学習できるようにする。



児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(9月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	85	90	86.5
②授業の始めに、これまでの振り返りや課題のめあてを確認している。	82	90	88.5

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(9月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	80	85	91
②児童が学習の計画を立てる場面を設定している。	80	85	100

総括(8月)

昨年度から「学び続ける力」の育成を目指した授業改革を進めている。児童調査ではどの項目でも80%以上の児童が肯定的な回答をした。一方で、本校の教員は指導感や授業スタイルにおいて、どのように変わればいいのか不安を感じていることが分かった。そこで、「選択肢の段階表」「授業の現在地調査」を活用しながら、日ごろからお互いの授業を参観することで、授業改革を日常化することを芯に据えた。

総括(1月)

教員の意識としては、児童が学習を計画したり、学び方を選択したりする場面を設定し、授業改革は推進されている。しかし、児童自身が自ら計画を立てて学習できているという自覚は、教員の認識ほどではない。引き続き、児童に計画を立てさせ、学び方を選択できる場面を設定するとともに、学習のゴールイメージを明確にし到達度が分かるような手立てが必要である。

具体的な手立て①

選択する場面では、学習のねらいを達成するための有効な選択肢を設定する。

具体的な手立て②

課題解決に取り組む場面では、児童の学習状況に応じて、適切な言葉かけをする。

具体的な手立て③

振り返る場面では、他の考え方や効果的な選択肢などを共有し、学習内容や学び方、自己の考え方の広がりや力の高まりを感じられるようにするために、児童が一人一台端末を活用する。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・授業観察の際は、指導案を教員にも配付し授業を見合う機会を設定する。また日頃から授業を見合えるようにするために、新しい試みがあるときや、見てほしいポイントがあるときには、すんなり学年内で声をかけ、短時間でも参観をする。主任教諭が若手教員に声をかけ授業を参観できるようにする。
- ・日頃から「目指す授業の段階表」「目指す児童の段階表」を活用するとともに、定期的に行う教師の実態調査で活用状況を把握する。